

## 「5教振」見直し計画の中間まとめ(案)についての意見

## 【後藤 恒裕 委員からの意見】

- 全体的に、これまでの懇話会での各委員の意見を取り入れた形で構成されており、基本的に賛成できるものである。
- 今後、最終案の提示までに表現上、考慮いただきたいこと。
  - ・各章、各項目の表現の中に、中心概念として貫くものが「いのちの教育」であると感じさせるものが必要であること。
  - ・「かかわり」の在り方が「いのち」や「まなび」を支え、その豊かさを決める極めて重要な要素であること。
  - ・国際化、グローバル化に対応する力の前提として、日本人（県民）としての自己同一性の確立が重要であること。
  - ・深みのある日本語の学習が外国語学習の前提であること。

## 【寒河江 浩二 委員からの意見】

- 「(3) 幼児期の教育の推進」については、幼保小連携スタートプログラムに基づく取組みのことが描かれているが、子どもたちの興味・関心を高めるため、「遊び」から「まなび」へのつながりが重要であり、幼保小の連携が重要であり賛同できる。
- 「(4) 読書活動の推進」については、新聞を活用した学習活動の推進を盛り込んでほしい。新聞は食事で言うと「定食」であり、栄養のバランスのとれたもの。豊かな心を育むことについても、学力を向上させることについても、大切なものである。子どもたちが新聞を作成する活動や新聞を資料とした課題解決学習などを通して、子どもたちの力を伸ばしていけるのではないか。
- 「(8) 情報教育の充実」については、ICTの進展によって、子どもたちが現実と非現実との世界を混同せずに、主体的に生きていく力が必要。教員はそれに対応し、子どもたちを指導していくための資質が必要である。
- 「(10) 郷土、地域の学習」について、社会人となっても「山形」のことを知らないという人間が少なくない。郷土を支え、ふるさとを大切に思う人間を、義務教育から育ててほしい。
- 「(11) 特別支援教育の充実」については、民間で就労支援を行っているところがあるが、行政が中心となり就労訓練等を推進していく必要がある。

## 今後の予定について

- 本日の御意見等を踏まえ、山川座長と調整させていただきながら「中間まとめ(案)」の修正等を行い、「『5教振』の見直しに係る『中間まとめ』」として、パブリック・コメント(県民からの意見聴取)及び関係団体(※)への意見照会を行いたい。
- 提出された意見も考慮しながら必要な修正等を行って答申(案)を調製し、第5回懇話会(来年2月開催予定)で協議いただく予定。

### ■年間のスケジュール

事項(時期)	内 容
第1回懇話会 (H22.6.2)	協議 ○座長選出 ○教育長から座長へ「5教振」の見直しについて諮問 ○これまでの取組状況と、その成果や課題等について ○第3次山形県総合発展計画について ○国の動きについて
第2回懇話会 (H22.8.3)	協議 ○今後の教育施策の展開方向について
第3回懇話会 (H22.9.14)	協議 ○平成21年度教育委員会活動の点検・評価について ○見直し計画の「骨子(案)」について
第4回懇話会 (H22.11.22)	協議 ○見直し計画の「中間まとめ(案)」について
意見聴取 (H22.12月予定)	・パブリック・コメント(県民からの意見聴取) ・関係団体への意見照会
第5回懇話会 (H23.2月予定)	協議 ○答申(案)について
答申 (H23.3月予定)	・座長から教育長へ「5教振」の見直しについて答申
県教育委員会への付議 (H23.3月予定)	・県教育委員会で見直し計画(案)について審議

※ 関係団体については、○市町村教育委員会、○山形県連合小学校長会、○山形県中学校長会、○山形県特別支援学校長会、○山形県高等学校長会、○山形県PTA連合会等を予定しています。

なお、第5回懇話会の開催日程については、追って調整させていただきますので、御了承願います。